



地域常設資源回収拠点での ペットボトル回収について

【地域常設資源回収拠点とは】

- ・資源の市内循環や地域への還元などを目的とし、市内12ヶ所設置。
- ・三郷町、明智町は、資源回収拠点を独自に運営
- ・拠点では、新聞、雑誌、ダンボール、雑がみ、アルミ缶を回収。
- ・拠点の名称や管理者は、地域によって異なる。

令和7年12月24日



恵那市公式キャラクター エーナ



1. 経過

○令和5年10月から、地域常設資源回収拠点でのペットボトル回収を
4ヶ所(長島・中野方・岩村・山岡)で試行的に実施

○試行から見えた課題

1. 管理者の負担

夏場は回収量が多く、「回収ボックス」から「運搬用袋(フレコンバック)」への移し替え作業が週に複数回発生。ペットボトルが雨ざらしで作業時に服が濡れる。

2. 回收回数の限界

市施設管理公社は、月1回の回収が限界。しかし、実際には月2~4回の回収が必要だった。

上記の理由により、**令和7年2月に試行を中止**

複数の地域からペットボトル回収の復活を望む声が寄せられた(分別意識の高まりと、利便性への期待)。

市全域での回収に向けて、課題への対応を検討する。



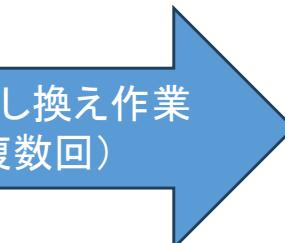
1. 経過(試行時の様子)

岩村:R6・7月



回収ボックス
(屋根がなく雨ざらし)

管理者が移し換え作業
(週に複数回)



運搬用袋(フレコンバック)
(夏場は週10袋以上にも)



2. 課題対応①

(1) 管理者負担への対応

○既設の資源回収コンテナ内に、ペットボトルの回収スペースを確保



- ・フレコンバッグを直接設置できるため、**移し替え作業が不要**。
- ・屋根があるため、ペットボトルが**雨に濡れない**。

・管理者への説明

雑がみの区画移動、夏場はフレコンバッグの出し入れが頻繁に生じることを、すべての管理者に説明し、理解を得た。

・管理費の支払い

ペットボトル回収に対して、管理費の仕組みを導入

・回収コンテナの購入

岩村は回収量が多く、既存のコンテナ内にペットボトル回収スペースを確保できない。また、三郷と明智にはコンテナがないため、新たにコンテナを購入・設置する必要がある。



「雑がみ」を「雑誌」の区画へ移動し、
ペットボトルの回収スペースを確保
(フレコンバックを2袋設置可能)



2. 課題対応②

(2) 回収体制の確保

- 市施設管理公社を主体とし、公社では対応できない部分について、一般廃棄物収集運搬許可業者に委託する。
- 許可業者には、回収量が増える夏場(6~10月)の回収の一部を委託する。
- 回収回数は、回収量が多い所が月4回、少ない所は月2回とする。

【一般廃棄物収集運搬許可業者と担当地域】

市施設管理公社では対応できない部分の回収を委託

- ・恵那北部9カ所 (株)恵那清掃工業
- ・恵那南部(明智以外)4カ所 ケイナンクリーン(株)
- ・恵那南部(明智)1カ所 国本商店



3. 費用(ペットボトル回収実績)

年度	回収量	売却額	単価
R2	81t	3,489千円	43,074円/t
R3	88t	2,310千円	26,250円/t
R4	80t	7,038千円	87,975円/t
R5	100t	6,487千円	64,870円/t
R6	115t	9,505千円	82,652円/t
R7 4~11月(8カ月)	77t (前年度の70%)	7,572千円 (前年度の80%)	前期 94,940円/t 後期 62,342円/t

試行期間
R5.10～R7.2

(参考)R6の月別回収量から、R7の年間回収量と売却額を試算

・年間回収量 77t + (12～3月見込み30t) = 107t

・年間売却額 7,572千円 + (12～3月見込み1,870千円) = 9,442千円

R7の回収量・売却額とも、前年度と同程度になることが見込まれる。

市全域での拠点回収により、回収量の増加が期待できる。



4. 今後の予定

- 令和7年12月まで：
　　庁内、回収拠点の管理者、許可業者との調整・協議
- 令和7年12月まで：
　　当初予算調整
- 令和8年1月
　　地域自治区へ説明
- 令和8年4月～6月：
　　市民周知・回収拠点整備
- 令和8年7月：
　　本格実施